

眼科—いま総合病院では—

いま

東京女子医科大学附属 足立医療センター

東京都足立区江北4-33-1
TEL03-3857-0111



教授 須藤 史子

「足立医療センター」として「新図る」 大学附属病院の高度医療と地域医療支援を担って

沿革

東京女子医科大学は、1900年に学祖・吉岡彌生先生が創立し120年以上の歴史があります。附属施設の一つである「足立医療センター」の原点も古く、関東大震災に続く金融恐慌の不況下であった1930年、荒川区尾久隣保館を借りて夏季無料診療事業を行なったことから始まります。1934年に東京女子医学専門学校尾久病院として7つの診療科で開院し、眼科も当初からの診療科です。その後、1936年に名称を東京女子医学専門学校（後の東京女子医科大学）第二病院に、さらに2005年には開設70周年を記念して東京女子医科大学東医療センターと改称し、コロナ禍の前年（2019年）には開設85年を迎えました。

建学の精神として「至誠と愛」の理念のもと、区東北部二次保健医療圏（荒川区、足立区、葛飾区）を中心とした地域医療の中核拠点病院と大学病院機能の両面で発展してきましたが、施設の老朽化と狭隘化から建て替えが難しく移転用地を模索



病院全景 ヘリポートのある病院棟と学校棟からなる

したところ、足立区から病院誘致を受けました。同一エリアにあった看護専門学校、研修医と看護師の寮を合築して整備し、2022年1月1日に荒川区から足立区江北へ移転し、

名称を東京女子医科大学附属足立医療センターに変更しました。

新病院の概要

日暮里駅から発する日暮里・舎人ライナーで約10分、スカイツリーを見ながら隅田川・荒川に架かる橋を渡ると江北駅に着きます。江北駅は「東京女子医大足立医療センター」



手術室 低侵襲緑内障手術執刀中

と副名称が付き、複数バス路線が行き交う病院前のバス通りも「東京女子医大通り」と改称されるほど、病院を核としたまちづくりがなされ、足立区からの期待を大きく感じる歓迎となりました。

駅から徒歩5分の元URの広大な敷地に、地下1階・地上10階建て、敷地面積2万7644・94平方メートル、延床面積4万8791・65平方メートル、許可病床数450床の規模となっております。病床数は旧病院と同数ではありませんが、高度急性期医療を拡充するため、特定集中治療室等を30床増床しました。手術室はハイブリッド手術室を含め12室、救命救急センターにはハイブリッドER（IVR-ICU）を導入しております。屋上にはヘリポートがあり、災害に強い病院を目指し病院棟は免震構造です。

また、近くを流れる荒川が氾濫した際には5メートル浸水区域になっていることから、地盤面に盛土を行ない2・5メートルかさ上げ、防潮壁・防潮扉の設置により、病院機能を維持できる設計となっております。

診療体制

常勤医師5人（うち、眼科専門医2人）、非常勤講師7人、視能訓練士3人で診療を行なっています。大学附属病院でありながらも地域に根ざした病院であることから、乳幼児から高齢者まで、前眼部・外眼部から後眼部まで幅広く対応しています。

外来診療は基本的に予約制ですが、地域の先生方からの緊急依頼にはできるだけ対応さ



NICU 未熟児網膜症診察中

せていただいております。診察室は5診と感染症用診察室1診がありますが、人手不足から全てを埋めるまでには至っておりません。手術は定例枠が火曜日と金曜日の終日、非常勤講師用として水曜午後と木曜午後により月1回行なっております。新病院の手術室は部屋面積も広く、4台のモニターが備えられており、医師のみならず学生やスタッフの教育にも有用です。

機器関連

電子カルテはNEC社製、眼科部門システムはFINEX社製を使用しています。診療機器は、須藤史子教授が着任した2016年から毎年着実に更新や新規導入がなされ、手術顕微鏡、硝子体手術装置、超音波白内障手術装置、前眼部OCT、広角眼底撮影カメ